

第2部

基本構想

第1章 まちづくりの基本理念

第2章 町の将来像

第3章 まちづくりの目標

第4章 施策の大綱

第5章 構想推進のために

第1章 まちづくりの基本理念

時代の潮流や本町のまちづくりの課題を踏まえ、新たな町を創り上げていく本計画の土台となる考え方として、以下のように基本理念を定めます。

「調和と創造 自立するまち」

人々が安心して、いつまでも住み続けたいと思える町であり続けられるよう、豊かな自然や温かいつながりなどの地域の特性を活かしながら、人や文化、環境の調和を図り、新たな町としての魅力や誇りを再確認・創造していくことをまちづくりの基本とします。

また、住民と行政それぞれが新たな町を自ら創っていくという意識を共有し、安定した財政運営のもとで、地方分権の時代に対応できるまちづくりを進めます。



第2章 町の将来像

1 将来像

平成18年3月の合併にあたって策定された新町建設計画で掲げた将来像の精神を基本にしながら、本計画でめざす将来像を以下のように定めます。

「栗山川の流れがはぐくむ 人・自然・文化が共生するまち ～協働のまちづくり～」

栗山川は、古くから生活・産業の両面で、この周辺に暮らす人々の暮らしの基盤を支え、横芝光町の誕生によって町の中心となりました。

私たちは、人の往来や物の流れの源であった川を一体化の象徴として、住民一人ひとりが協力し合い、この町の資源である豊かな自然や文化を守り、活かしながら、新たな人の交流やにぎわいを創り、育てていくまちの姿を本計画の将来像とします。

2 町の基本フレーム

本計画を進めるにあたり、以下のような人口の想定と土地利用のあり方を町の基本的な枠組みとします。

(1) 将来人口

本計画では、目標年度である平成29年の総人口を概ね24,000人と想定します。

■ 人口推計

	2005(H17)	2007(H19)	2012(H24)	2017(H29)
総人口	25,981人	25,700人	24,900人	23,900人
15歳未満	3,282人 (12.6%)	12.2%	11.0%	10.1%
15～64歳	15,959人 (61.4%)	60.8%	58.4%	55.3%
65歳以上	6,738人 (25.9%)	27.0%	30.6%	34.6%

注：2005(H17)年の数値は国勢調査。

総人口には年齢不詳を含むため、年齢別人口の合計とは一致しない。

(2) 土地利用のあり方

本計画では、それぞれの地域が持つ特性や機能を活かしながら、相互の連携に努め、環境との共生と均衡ある発展を基本とした土地利用を進めます。

地域の特性や機能に基づくエリアの設定と整備方針は以下のとおりです。

①市街地エリア

鉄道、国道が横断し、交通・交流の拠点である中央部は、駅、病院、図書館、役場などの公共公益施設のほか、商店街も立地し、生活サービス機能の拠点にもなっています。この地域を「市街地エリア」として、駅周辺や横芝光インターチェンジ周辺の整備など、各種の都市機能の集積・充実と交流機能の向上を図ります。

②農用地エリア

町内には水田や畑地が広がり、その中に集落が形成されています。この地域を「農用地エリア」として、用排水路の整備やほ場区画の大型化などを進め、農業生産基盤の充実に努めるとともに、生活道路の整備などによる生活環境の快適性の向上を図ります。また、無秩序な開発や耕作放棄を防止し、豊かな田園景観の保全に努めます。

③緑地保全エリア

町の北部の緑豊かな森林は、景観の形成、災害の防止、水源のかん養などのきわめて重要な役割のほか、レクリエーション^{*1}の場も提供しています。この地域を「緑地保全エリア」として、自然環境を保全し、森林の多様な機能の維持・向上を図るとともに、住民が自然とふれあう場として活用します。

④海浜エリア

太平洋に面する海岸部は県立九十九里自然公園に指定され、九十九里浜の雄大な景観が広がり、多くの観光・レクリエーション客を集めています。この地域を「海浜エリア」として、地域住民の生活環境の向上に努めながら、海岸保全と周辺施設の整備を進め、地域の特性を活かしたゆとりと楽しみの空間として活用します。

⑤自然散策エリア

栗山川は、人々の暮らしを支える重要な自然的機能を持つとともに、本町の一体性や自然との共生のシンボルです。川の両岸を「自然散策エリア」として、水質浄化や環境美化、災害防止に努めながら、住民と自然のふれあいや住民の交流の場として活用します。

⑥工業団地

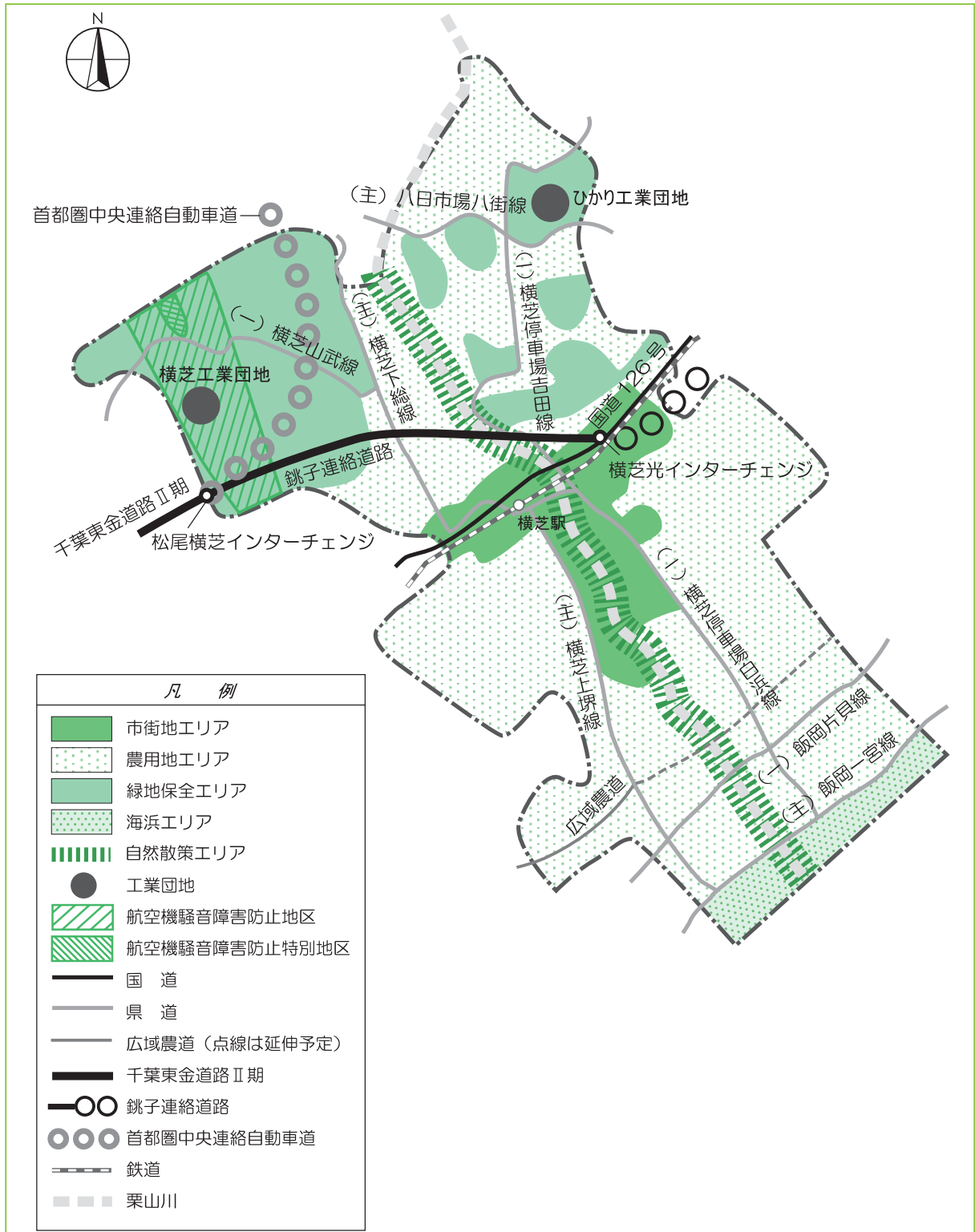
横芝工業団地やひかり工業団地は本町の産業拠点として重要な役割を担っています。2つの工業団地については、成田国際空港や高速道路への近接性を活かして、さらなる企業誘致に努め、人・物・情報の集積・発信の場として一層の機能拡大を図ります。

*1 レクリエーション：余暇活動、娯楽

⑦航空機騒音障害防止特別地区・防止地区

成田国際空港に離発着する航空機の飛行コース直下にあたる町北西部は航空機騒音障害防止特別地区および同防止地区に指定されています。今後は、都市計画等に基づきながら、騒音障害の防止や地域の活性化による空港と共生するまちづくりを進めます。

■ 土地利用図



第3章 まちづくりの目標

将来像の実現に向けて、以下のように各行政分野の目標を定めます。

1 健康で笑顔が輝くまちづくり

一人ひとりの健康づくりの推進を基本とした上で、子どもから高齢者までの誰もが安心して暮らせるよう、保健・医療・福祉の連携を図りながら、予防、医療、介護、福祉等総合的にサービスを提供していくことを重点として、施策を推進します。

また、子育ての多様化、高齢者の生きがいづくり、障害者の自立など、一人ひとりの生き方を応援するための施策の充実に積極的に取り組みます。

2 豊かな心を育む教育・文化のかおるまちづくり

地域の人材、企業、伝統・文化、自然、各種施設など、多様な資源をつなぎ、活用して、社会の変化に主体的に対応できる、たくましい子どもを育てていくことを重点として、施策を推進します。

また、住民相互の交流と連帯感に支えられた健康で生きがいのあるまちづくりをめざし、従来から活発に行われてきた地域での文化・スポーツ活動など、住民の自主的な活動・運営を支援して、いつでも誰もが関心あるテーマで学習・活動でき、その成果を地域で活かすことのできる環境づくりを進めます。

3 環境と調和した快適で安全なまちづくり

良好な環境の保全と利便性の向上を基本とするまちづくりの中で、住民の意向を的確に把握しながら、道路・交通をはじめ、住民生活を支える各種の基盤整備を計画的に進めていくことを重点として、施策を推進します。

また、防犯・防災などの安心・安全や、汚水・排水処理などの環境衛生、航空機の騒音対策など、生活者の目線から、地域特性に応じたきめ細かい暮らしの質の向上に取り組みます。

4 地域の特性を活かした産業のまちづくり

本町の基幹産業である農業は、食糧の供給や豊かな田園環境の構成などの重要な役割を果たすものであり、地産地消^{*1}や食育^{*2}などの新たな視点も重視しながら、観光や商業との連携を促進し、時代の変化に対応した農業経営を支援します。

また、地域に密着した商業振興や交通体系の充実などの地域の特性を踏まえた産業振興を重点として、施策を推進します。

*1 地産地消：地域生産地域消費の略、地域で生産された産物をその地域で消費すること

*2 食育：さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

5 互いの理解とふれあいに満ちたまちづくり

新しい町として住民の一体感の醸成と地域力の復元をめざし、住民と行政、また住民同士の交流・連携の機会を積極的に提供し、歴史ある地域の組織や活動の活性化とともに、新たな人のネットワーク^{*3}づくりを促進し、多様なテーマ・関心に基づいて人と人のつながりを生み出すことを重点として、施策を推進します。

また、このようなネットワークづくりを支えるため、地域の情報化を積極的に促進します。



*3 ネットワーク：一般に、網状の組織・仕組み（人、情報、コンピュータなど）

第4章 施策の大綱

まちづくりの目標を達成するため、以下のような方向で施策を進めます。

1 健康で笑顔が輝くまちづくり

(1) 一人ひとりの明るい人生を支える

誰もが希望に満ち、生きがいを持って暮らしていけるよう、多様なニーズに応えられる子育て支援サービスの提供や、高齢者の介護予防の充実と社会参加の促進、障害者の地域での生活などを支援する仕組みやサービスの充実に努めます。また、このような福祉サービスを支える環境として、ボランティア^{*1}から専門知識を持つ人材まで、地域福祉を担う人材の育成とネットワーク^{*2}化を積極的に進め、家庭や地域、関係機関が連携する地域福祉体制を確立します。さらに、誰もが気軽に安心してまちに出かけられるよう、ユニバーサルデザイン^{*3}のまちづくりを進めます。

(2) いのちと生活の安心を守る

保健・医療・福祉の連携により、健康に関する情報発信や相談、検診などの充実を図り、一人ひとりの健康づくりへの意識の向上と取組みの充実を積極的に支援します。このため、地域の医療機能を有効に活用し、保健・医療・福祉の総合的な体制整備を進めます。また、誰もがどんなときでも安心して暮らせるよう、国民年金制度をはじめとする社会保険制度の重要性を啓発するとともに、介護保険、国民健康保険などの安定的な運営に努めます。

2 豊かな心を育む教育・文化のかおるまちづくり

(1) 自立した未来の担い手を育てる

子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てるため、きめ細かな指導とそれを支える指導体制を整備するとともに、豊かな教育活動を通して自己肯定感を高める教育を推進します。また、児童・生徒数の動向や施設の老朽度を踏まえた安全で快適な教育環境づくりを進めます。さらに、学校と家庭、地域が連携した交流・体験の機会の拡充に加え、町の明日を創る青少年が健やかに育つよう、家庭教育の重要性の啓発に努めるとともに、子ども会や青少年相談員など、地域の連携による自主的な活動を積極的に支援し、青少年のコミュニケーション能力やリーダーシップ、町を愛する心を育てていきます。

(2) 個性を活かす機会を充実する

誰もが自分の関心に応じて学習・活動し、その成果を地域の活気づくりに活用できるよう、住民ニーズを的確に把握し、生涯学習プログラムの充実やボランティアなどの人材育成を進めます。また、情報拠点としての図書館など、自主的な学習・活動を支える環境の充実に努めます。

地域資源である歴史や伝統を保全するとともに、優れた芸術文化に触れる機会や発表の場を積極的に提供し、住民による自主的な文化活動を支援します。また、従来から活発に行われてきたスポーツ活動を活かし、大会等のイベントの開催や団体・指導者の育成を通じて健康的なまちづくりを進めます。

*1 ボランティア：自主的に社会事業等に参加し、奉仕活動をする人

*2 ネットワーク：一般に、網状の組織・仕組み（人、情報、コンピュータなど）

*3 ユニバーサルデザイン：年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能なようにデザインすること

3 環境と調和した快適で安全なまちづくり

(1) 暮らしやすい都市の機能を整える

環境との共生と利便性の向上に向けた計画的な土地利用の中で、住民の交流や町の一体化の中心となる機能整備を進めるとともに、町の骨格となる幹線道路の整備や公共交通機能の確保により、町の魅力の向上を図ります。また、合併処理浄化槽^{*4}の普及と農業集落排水施設^{*5}の維持に努めるとともに、一部事務組合と連携しながら、ごみ・し尿処理事業を充実し、ごみの減量化・再資源化を促進します。

さらに、地区によっては特に大きな影響を受けている航空機の騒音対策に引き続き取り組むとともに、空港との共生を図ります。

(2) ふるさとの水と緑を保全・活用する

豊かな自然環境を町の個性として保全・活用していくため、環境・景観に対する住民の関心・認識を高めながら、自主的な活動を積極的に支援します。また、町の象徴的な存在である栗山川や九十九里自然公園など、地区の特性を活かした自然に親しめる空間、子どもからお年寄りまでが憩える空間づくりに取り組み、環境と共生するまちづくりを総合的に進めます。

(3) 生活の不安とリスクを和らげる

防災や防犯・交通安全について、関係機関との連携による体制の充実を図るとともに、積極的な情報提供に努めながら、一人ひとりの意識の高揚と地域の自主的な活動の育成を図り、住民の眼の行き届く安全な環境づくりを進めます。消防・救急については、計画的に機能の充実を進めるとともに、人員確保・体制強化を促進します。

また、墓地・火葬場のあり方の検討や消費生活における相談体制の充実など、生活の中のさまざまな不安やリスク^{*6}の解消に努めます。



町民体育祭

*4 合併処理浄化槽：し尿と生活雑排水を合わせて処理する浄化槽

*5 農業集落排水施設：農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水等を処理する施設

*6 リスク：予測できない危険

4 地域の特性を活かした産業のまちづくり

(1) 資源を活かして魅力を高める

農業生産性の向上に向けた基盤整備を計画的に進めるとともに、これからの農業を担う人材の育成や企業的な経営に対する支援に努めます。また、環境保全型農業や地産地消の推進に加え、観光や商業との連携によって第一次産業の振興を図ります。

こうした農業などの地場産業に加え、海・川・池沼などの自然資源や、史跡・伝統芸能などの歴史資源を活かしながら、観光の基盤・環境の整備と町の魅力の発信を進めます。

(2) 地域のニーズを満たす産業を応援する

新たな雇用機会を創出し、若者の定住を促すため、高規格道路や成田国際空港への近接性を活かし、工業団地等への企業誘致を進めます。また、住民に身近な商業機能の維持に努めるとともに、地場産業や観光と連携した商業・サービス業の活性化を図ります。

さらに、安定した雇用の一環として、関係機関と連携しながら、雇用情報の提供に努めるとともに、地域のニーズ^{*1}に即した新たな事業の創出を支援します。

5 互いの理解とふれあいに満ちたまちづくり

(1) 誰もが尊重される社会を実現する

学校や企業などと連携しながら、国籍や性別、障害など、一人ひとりの個性を互いに理解・尊重し合う社会の形成を進めます。

その中で、男女が互いに個人として尊重され、対等な立場でその能力を発揮することのできる男女共同参画社会の実現に努めます。また、国際性豊かな人と文化を育てるため、住民の国際理解や地域に暮らす外国人との交流を促進します。

(2) ネットワークで新しい時代の社会を創る

住民同士の交流や組織横断的な連携の機会を通じて、誰もが気軽に参加しやすい地域組織づくりや、個人の自由な関心やテーマに基づいたグループ活動（ボランティアやNPO^{*2}など）を促進し、地域における課題の解決や活力の創出を支援します。

また、インターネット^{*3}などを活用して、地域情報の共有を進めながら、町の魅力の発信や人々の内外の交流を促進するとともに、すべての住民が高度情報化の恩恵を受けられるよう、学習機会の充実等に努めます。さらに、電子自治体化を推進し、住民ニーズに即した行政サービスの効果と効率の向上に努めます。

*1 ニーズ：必要、需要、要求

*2 NPO：Non-profit organization の略、非営利組織

*3 インターネット：複数のコンピュータネットワークを相互接続し、全体がネットワークとして機能するようにしたもの

第5章 構想推進のために

基本理念や将来像を踏まえ、以下のような施策横断的な考え方をもって、基本構想を推進します。

(1) 住民参加

住民の連携、コミュニティ^{*4}活動の活性化を促進しながら、行政に関する情報のきめ細かい提供と住民がまちづくりに参加できる多様な機会の提供を積極的に行い、住民や企業、行政がそれぞれの役割を分担し、連携する、協働のまちづくりを進めます。

(2) 行政運営

住民の目線でわかりやすく便利なサービス提供に努めるとともに、職員の資質や組織機能の向上により、柔軟で機動的な行政運営を進めます。また、地方分権に対応した政策立案能力の向上とともに、計画・事業実施・評価・見直しのサイクルに沿って、政策の効率性・有効性の向上に努めます。

(3) 財政運営

自治体経営の視点から、日常的なコスト削減はもとより、具体的な目標設定、評価・モニタリング^{*5}に基づく重点の明確な予算編成を行うとともに、民間の活用や受益者負担の適正化など、厳しい地方財政に対応できる財政の構造的な転換を進めます。

(4) 広域連携

時代の流れや地方分権の動きを引き続き研究しながら、住民ニーズ^{*6}や施策の効果・効率を的確に判断して、今後の広域連携のあり方について検討を進めます。



*4 コミュニティ：共同体意識を持つ人々の集団

*5 モニタリング：事業実施中に事業の進捗状況や成果を継続的に点検すること

*6 ニーズ：必要、需要、要求

基本構想の構成

将来像

『栗山川の流れがはぐくむ 人・自然・文化が共生するまち
～ 協働のまちづくり ～』

まちづくりの目標

まちづくり

健康で笑顔が輝く

まちづくり

豊かな心を育む教育・文化の

まちづくり

環境と調和した快適で安全な

まちづくり

地域の特性を活かした産業の

まちづくり

互いの理解とふれあいに満ちた

施策の大綱

一人ひとりの明るい人生を支える

いのちと生活の安心を守る

自立した未来の担い手を育てる

個性を活かす機会を充実する

暮らしやすい都市の機能を整える

ふるさとの水と緑を保全・活用する

生活の不安とリスクを和らげる

資源を活かして魅力を高める

地域のニーズを満たす産業を応援する

誰もが尊重される社会を実現する

ネットワークで新しい時代の社会を創る

構想推進のために（住民参加、行政運営、財政運営、広域連携）

まちづくりの
基本理念

「調和と創造 自立するまち」